

Memento

知りたいあなたのための 京都の部落史（超コンパクト版）その2 膨大な史料と研究を前にして途方に暮れないために

灘本昌久

戦国時代をくぐって

戦国時代というのは、応仁の乱の始まった1467年（応仁1）から織田信長・豊臣秀吉による天下統一がなされるまでをいう。従来の近世政治起源説にもとづく部落史の代表的著作である原田伴彦著『被差別部落の歴史』（p.68-69）は、戦国時代をくぐりぬけた中世賤民について、次のように整理している。

「（1）古代の賤民という法制上の身分は平安時代に消滅してしまい、中世にもいやしめられた底辺の人びとが生じましたが、それは国の法律や制度として正式につくられたものでないこと。（2）これらの人びとの血筋や身分が連綿として世襲的につながったものでなく、これらの一群の人びとは個人的にはたえず交替していたこと。また一定の地域にしばらくつけられたまま、移動の自由や職業をかえる自由を奪われたものでなかったこと。（3）応仁の乱から戦国の時代に、大名やその家臣団や地主たちが中下層の地位から上昇したように、賤視された人びとも下剋上の時代に、解放されていったこと。（4）戦国時代は社会の大きな変動期で、これまでの家格や門地の高い支配層が転落し、中下層の人びとが上昇

するなど、これまでの社会の上下のちがいがまったく混乱してしまい、それにもなあって、賤民的なものがほとんど消滅に近い状態になったこと、などがあります。」

要するに中世賤民と近世の賤民は、戦国時代の動乱で切断されており、集団のレベルでも個人のレベルでもつながりはほとんどない、というわけだ。

しかし、ここ30年間ほどの部落史研究の成果によれば、中世賤民集団が戦国時代の動乱の中で完全にまぜかえされ、近世の幕藩体制成立の中でゼロから作られたような話は、まったく事実とは異なる。

たとえば足利義昭を奉じて京都に進軍した織田信長が、1568年（永禄11）四条天部（現在の三条地区）に対して軍勢による乱暴狼藉や放火を禁ずるいわゆる「禁制」を発給した[1-176, 3-434]（ハイフンの両側は『京都の部落史』の巻とページ数をしめす。以下同じ）。自分の軍にたいし、天部村に手を出してはいけないと厳命しているのである。天下統一をめざして京都に戦国武将が入ってきた時、そこには以前から住んでいる河原者たちのうやうやしく頭をさげる姿があったのである（なお、豊臣秀吉も1582年に信長に準じた禁制を四条天部に発給）。この天部村は、京都でももっ

とも古い河原者の村で、慶長年間（1596～1615年）に制作されたとされる「洛中洛外図」（高津本）にも明瞭に描かれており[1-204]、1296年頃制作の「天狗草紙」に描かれている「穢多童」も天部村の前身であった可能性がある[1-47, 3-239]（源城政好「洛中洛外図にみえる河原者村について」を参照のこと）。

徳川家康の場合も同じで、もともとは三河（愛知県）や駿河（静岡県）を根拠地としていた彼が、秀吉の命令で江戸に移ったとき、まだほんの片田舎に過ぎなかった江戸には、すでに弾左衛門が根をはっていた。そこで、家康は弾左衛門に關東の穢多の統率をまかせることにしたのである。

以上は、やや大河ドラマ風に全国統一に向かう戦国大名と河原者たちの出会いをのべたが、もう少し実証的にいっても、近世に穢多村と称された地域の成立は、江戸時代から相当さかのぼる。山本尚友氏の「近世部落寺院の成立について」によれば、山城・丹波・播磨という関西の部落の寺院の開基は、1321～1428年に7カ所、1429～1500年に1カ所、1501～1572年に39カ所、1573～1614年に57カ所、1615～1670年に57カ所、1671～1692年に12カ所とあり、江戸時代をまたずに相当数のお寺（道場）が成立している。そして、寺がなりたつためには、それを支える集団が村として成り立っていることが前提であるので、由緒ある中核的部落の成立は、鎌倉末から室町期ということが出来る。

京都における部落の成立につき、決定的な論証をしたのが田良島哲氏の「中世の清目とかわた村」である。この論文では、現在の京都市南区にある久世地区が1396年（応永3）にまで史料的にたどれることが厳密に論証してある。また、川嶋将生氏も「川崎村の成立をめぐって」で、現在の京都市養正地区につながる江戸時代の川崎村が、史料上1451年（宝徳3）までさかのぼると推定されている[1-159, 9-5]。

平安末から鎌倉期にかけて、断片的に清目の活動が史料上現れているが、戦国期になると公家の日記などに河原者や庭者の名称で頻出するようになり、「善阿見」「川崎入道」「又四郎」「赤」「サツキ」「小鶴」「小五郎」などと人名まで特定できる状態で多数の河

原者たちが登場し、その発言の内容まで明らかになっている[1-141～171]。そして、それらの集団と江戸時代の穢多村の連続性が明らかになっている今日においては、中世賤民集団が戦国時代の動乱で雲散霧消し、江戸時代とは切断されているというような話は、まったくの作り話というほかないのである（山本尚友「中世末・近世初頭の洛南における賤民集落の地理的研究」も参照のこと）。

さらに付け加えるならば、普通、村の歴史を語る場合は、その村が如何に古いかということは、自慢にはなっても恥ではない。古いほど水利や入会山での権利が主張できるし、村自体の格も高いと認識される。それが、こと部落史になるととたんに、古くない古くない、中世などとは無関係と、やっきになって古さを否定するのは滑稽であるし、一種異様な風景である。子のため孫のためと念じて、荒地を耕し水利を改良し、また皮革などさまざまな製造業を生み出した河原者たちが、草葉の陰で泣いていようというものだ。江戸時代になると、穢多村の生活が実態は一般の百姓と変わらなくなるのだが、そうした向上は、彼らの血と汗によってあがなわれていたのである。

他の賤民集団

以上は、江戸時代には穢多村と呼ばれることになる河原者の話であるが、中世に存在した他の様々な賤民集団は、戦国時代をくぐりぬけてどうなったのだろうか。

これらの賤民集団に共通していえるのは、かつて自分たちの後ろ盾となっていた権門勢家が力を失って賤民固有の職掌を捨てることになっていき、その結果、限りなく一般の百姓に近づいていったということである。

たとえば、河原者より先輩格の「宿（夙）」^{しゆく}、特に宿の集団の一員であり、かつ祇園社の暴力装置として権勢をふるった「犬神人」^{いぬじにん}を考えてみよう。清水坂非人とも呼ばれていた祇園社の犬神人は、興福寺をバックにもつ奈良坂非人（宿）との勢力争いを繰り広げていた。有名なところでは、1224年（元仁1）

に大規模な武力衝突があった[1-57, 3-345]。また、祇園社のさらにバックにある延暦寺の意向で、犬神人は一向宗、法華宗、禅宗などの鎌倉時代に登場した新宗派を弾圧している。たとえば、1227年の嘉禄法難では、親鸞の墓所が犬神人の手により破却されている[1-68]。

そして、宿と河原者もしばしば利害対立から紛争が絶えなかったが、武家の台頭により、武家をバックとする河原者は徐々に力を伸ばし、逆に祇園社・延暦寺をバックとする犬神人は、徐々にその権限を奪われ、戦国時代を過ぎて武家の一元支配の時代になると、まったく力を失う。都での警察業務も、秀吉が天下を取ってからはすっかり河原者の手に帰してしまう[1-174, 194]。こののち、江戸時代をつうじて、犬神人は祇園祭の先導などの役目は続けるが、ほとんど目立たない存在となる。ただ、古くから集団を形成していた宿村は、かなりの土地を集積していて、賤民としての権益を失っても、それを乗り越えるだけの経済的裏付けがあった[1-197]。

宿とともに、中世賤民の代表格である^{しょうもじ}声聞師も同様であった。声聞師（散所者）は、自分の属する公家や寺社などの荘園領主により保護されており、都にあっては御所の掃除を担当していたが、室町時代になって武家の権力が強くなるにつれて、河原者が徐々に声聞師の権益を侵食した。戦国時代になると御所の掃除も両者が分担するようになり、いつのころからかすっかり河原者の仕事になってしまった（山本尚友『被差別部落史の研究』p.138）。そして、秀吉が権力を握ると、1593年（文禄2）には、京都・堺・大坂の声聞師多数が尾張（名古屋）に強制的に移住させられ、荒地の開墾にあたらせられた[1-191, 4-134]。秀吉の死により、一部の声聞師は帰住したようであるが、自分の頼みとする権門の凋落は、たちまち配下の賤民集団の権益にも影響したのである。（なお蛇足ながら、尾張に流された声聞師たちが伝えた^{せんずまんざい}千秋万歳が尾張万歳となり、のちに上方に伝わって現在の上方お笑い芸興隆の基になったというのだから、歴史はおもしろい。網野善彦ほか編『大系 日本歴史と芸能』12、山路興

造『翁の座』）。

ただ、古い権益を失った宿や声聞師は、武家の権力からみるとただの百姓・町人と変わらない存在となり、地域社会での排除・賤視は受けるが（宿に対する差別、特に結婚差別は、ごく最近まで同和地区に対する差別とかわりなかった）、法制度的には平人扱いとなる。逆に、中世以来の武家との主従関係の続いた河原者集団が、旧来の賤民の職能を担いつづけたがために、江戸時代を通じて賤民の待遇を受けることになったのは、歴史の皮肉というほかない。当時としては、「親亀こけたら皆こけた」というのが宿と声聞師であり、勝ち馬に乗ったのが穢多（皮多・河原者）だったのだ。したがって、近世初頭の穢多身分の人たちにとって、特に身分を落とされたとか、武士階級から抑圧されたという認識はなかったはずである。むしろ、庇護者たる武家の力を借りて競合する他の集団とのせめぎあいに勝利したというほうが実感に近いはずだ。

江戸時代の身分制をできた当初から差別だと批判するのは、近代からの視線であって、穢多村の人々が、自分たちの境遇に不満を抱くにいたるのは、江戸時代の中期以降、穢多村の経済が発展して、それ以上の穢多身分の社会的上昇が江戸時代の身分制の枠内では不可能と感ぜられるようになってきてからのことである。そして、そのことは武士や百姓の側から見ると、身分秩序、社会秩序を食い破る反社会的意識・行動と映るのである。

穢多村の発展とバックラッシュ

江戸時代の半ばから、穢多村の経済は急激に成長し、人口も増大する。京都近辺の11カ村の合計でも、1715年（正徳5）に386戸2,064人であったものが、1870年（明治3）にはおよそ2倍強に増加する。その原動力の最大のものが、^{せつた}雪踏を中心とする履物業の興隆である。竹皮の裏に牛馬の皮を張って補強した履物である雪踏は、元来身分の高い人の履物であったが、商品経済の発展とともに台頭してきた町人階級の間で流行しはじめる。そして、年老いて死んだ牛馬の独占的取得権＝斃牛馬処理権＝当時の名称で「草場」を身分固

有の権利として持つ穢多村は、戦国大名に軍事物資として皮革を供給していた時代以来の、新たな皮革の需要と皮革関連製造業の発展にわいた[1-367]。この経済成長は、1881年（明治14）に西南戦争以来の不換紙幣の増発によるインフレ退治のため行われた松方デフレ政策による、部落産業の崩壊までつづく[2-40]。そして、幕府や各藩が町人と穢多身分の成長を座視できなくなって、身分統制に動くのも江戸後期である。

身分制度が揺らぎ始めた、象徴的な事件が1777年（安永6）に起こった。武蔵国榛沢郡新戒村より、地元の穢多身分の者が、医療技術にたけているので、平人に引き上げたいという申し出があったのである[1-375]。奉行所が、弾左衛門に問い合わせたところ、昔からの慣例を理由に引き上げは不可の回答をしたため、実現しなかったが、身分を人為的に変更できるという考えが浮かんでくること自体が、時代の変化を感じさせる。

そして、危機感をもった幕府は、1778年（安永7）に有名な風俗取り締まり令を発する。穢多非人が百姓のようなファッションでレジャーやショッピングに出歩くのはけしからんというお達しで、幕府が賤民身分に関連して意思表示した最初の法令とされる。これに引き続いて、各藩で風俗取り締まりが強化される。ただ、従来、こうした風俗取り締まりの解釈として、幕藩体制が動揺してきて百姓への搾取が強化され、その矛盾のはけ口として穢多身分を統制したとする議論が多かったが、疑問である。幕府や藩は、昔どおりの秩序を維持しようとしただけで、特別穢多身分を圧迫しようとしたわけではない。風俗取締り事件として有名な岡山の「渋染め一揆」（1856年）にしても、渋染め・藍染めの色を強制したのは、「おとしめる色」ではなく、百姓町人並みの服装を要求したに過ぎないという説もあり、傾聴に値する（住本健次「渋染・藍染の色は人をはずかしめる色か」）。

しかし、こうした圧迫にもかかわらず、穢多村の発展は続く。農業への進出は、持続的に続いたため、丹波地方などで一般の百姓との入会山の用益権をめぐる争いが頻発した[1-363~400]。また、部落寺院へ

の本願寺の取り扱いも、変化した。形式上、一般村のように部落寺院を正式の寺としては認めなかったが、正式の寺格を持つ寺院にのみ認めていた色衣や袈裟を穢多村の自坊でのみではあるが許可するようになった（ただし、料金は5割増しなどの高額）[1-414]。この他、1812年（文化9）には天部村から伊勢参りツアーにでかけた21人の一行が、旅から帰った後になって、旅行の事実が発覚し、泊めた宿の主人と参加者が咎めを受けるとい事件が起きている。風俗の取り締まりを受けながらも、「わかっちゃいるけど、やめられない」というわけである。[1-379]

こうして、穢多村は江戸時代を通じて、特に後半には一般の百姓を凌ぐ力を蓄えながら、明治維新という革命を迎えた。（完）

《参考・引用文献》

- 網野善彦ほか編『大系 日本歴史と芸能 12 祝福する人々〔本とビデオ〕』、平凡社、1990年
- 川嶋将生「川崎村の成立をめぐる」（『京都部落史研究所紀要』9、1989年）
- 源城政好「洛中洛外図にみえる河原者村について」（『京都部落史研究所紀要』2、1982年）
- 住本健次「渋染・藍染の色は人をはずかしめる色か」（朝治武ほか編『脱常識の部落問題』、かもがわ出版、1998年）
- 田良島哲「中世の清目とかわた村」（『京都部落史研究所紀要』5、1985年）
- 原田伴彦『被差別部落の歴史』、朝日新聞社、1975年
- 山路興造『翁の座』、平凡社、1990年
- 山本尚友「近世部落寺院の成立について 上・下」（『京都部落史研究所紀要』1・2、1981・1982年のち、山本尚友『被差別部落史の研究』、岩田書院、1999年に収録）
- 山本尚友「中世末・近世初頭の洛南における賤民集落地理的研究」（世界人権問題研究センター『研究紀要』2・3、1997・1998年のち、山本尚友『被差別部落史の研究』、岩田書院、1999年に収録）
- 山本尚友『被差別部落史の研究』、岩田書院、1999年

『京都の部落史』史料を読む 第3回

窮民授産所と興行等への課税

中島智枝子

はじめに

1868年（慶応4）1月3日、鳥羽・伏見で戦端が開かれ、京都市中は騒然とした状況に見舞われた。このような中、翌2月には北側芝居では尾上多見蔵、市川右団治、中村富三郎らによって「長柄長者鳥塚・布引・桂川」が行われている。ついで、4月には南側芝居で「絵本太功記・襖重浮名の鮫鞘」が実川延若、中村福助、市川右団治らによって上演されている。和泉式部芝居でも「忠臣蔵・鏡山・炭駕」が浅見徳三郎一座によって上演されている。この後も北側、南側芝居をはじめ京都の芝居小屋では前年と比べると活発に興行が行われていた。

政治支配者が幕府から朝廷に転換する時期の芸能興行を取り巻く状況の一斑について、『京都の部落史』所収の史料の中から、今回は窮民授産所開設に伴う芸能興行者等への課税を見てみたい。

流民集所・窮民授産所について

発足間もない京都府は、1868年（明治1）10月、芝居などの興行に「帯刀之もの並小者躰之者」が無銭で入場したり、木戸銭を払っているが乱暴を場内で働いたりした者の取締りを命じている。騒然とした市中の状況は芝居をはじめとする興行場にも及んでいたことがこれからもうかがえる。とりわけ、幕末の政争の中心舞台となった京都ではこの時期多くの流民が見られた。京都府ではこれらの流入者への対策を講ずる必要に迫られていた。流民集所から窮民授産所に至る、京都府の流民対策について、『京都の部落史』[第2巻 10～13ページ]の叙述をもとに見てみよう。

1868年（明治1）11月29日、京都府では、元は平民であったが「産を失い候者」を流民とし、これらの人々を堀川通、千本通、塔之段、六角通（後に廃止）、六波羅に設けた流民集所に収容した。収容された人々は

区域を限って市内の塵芥の清掃に従事した。この時出された達によれば「諸町・諸村篤志の者」に対して醸金を呼びかけ、さらに、医師に対しては「医業の儀は専ら仁術を旨とする事に付」、流民集所での医療を行う篤志があれば府へ申し出ることを達している。

翌1869年（明治2）3月10日、京都府は「流民と非人との区別を立て、且悪党・竊盗の類と困窮憫むべきものと見分け易からしむ」ために流民には流民札、非人には非人札を交付することとし、無札の流民、非人への施行を禁止した。京都府では流民集所収容の者には、平民への引き上げも許したが、非人はその対象から除外している。

流民対策として設置された流民集所であるが、2年後の1870年（明治3）11月、窮民授産所が設置されるに及び廃止された。

京都府の流民対策が流民集所から窮民授産所開設に至るこの時期、京都の人々にとって大きな問題となったのは天皇が東京へ移り、このため、京都が衰微するのではないかという問題であった。京都府では新政府に京都振興のための支援を申し出た。新政府は京都府に対して15万両の勸業基金と10万両の産業基金を交付することとした。京都府ではこれを基金として、2代京都府知事になる榎村正直が中心となって山本覚馬と明石博高をブレンに京都復興のため勸業策を講じるのである。

窮民授産所は明石博高の建議によって設立されたもので、1870年（明治3）11月15日、上京の中立売通智恵光院西入りに開設された。生まれながらの非人でない無籍の窮民を集めて、産業を授け職を勤めさせるための施設であった窮民授産所では、油絞り、蠟燭製造、紙漉、草鞋及び縄製造、織物、団扇製造、諸指物器具製造、搗米、養蚕、裁縫、養魚等の仕事に入所者は従事し、賃金が支給された。授産所では生活費を引いた残金を積み立て、元利が25円以上になれば、入所者が

退所する時、積立金を本人に払い戻し、就業資金とさせた。

開設4年後の1874年（明治7）末までの入所者は217名を数え、その内、入所者の三分の一に相当する72名が復籍している。調査中のものが3名、脱走者67名、病死した者が29名ということである。脱走者が67名もいたことは驚かれる。理由等は不明であるが、「窮民」としての入所に対する抵抗があったのか、あるいは、授産所での仕事が本人の望むところでなかったのだろうか。病死した者が29名もいたということは入所するまでに健康を害していた結果と考え、流民が如何に厳しい生活を余儀なくされていたかを物語っているといえるだろう（『明治文化と明石博高翁』田中緑紅編著、1942年6月刊）。

『京都の部落史』では授産所入所者の下げ渡しを扱った史料〔第6巻 415～416ページ〕が収められているので、その史料について次に見てみたい。

窮民授産所の入所者について

1872年（明治5）7月、窮民授産所に雇われ団扇骨削りを教授していた大久保伝右衛門（下京三条通大橋東4丁目15軒丁在住）であるが、授産所において自分の下で働いていた治郎吉を発見、早速、下げ渡しを願い出ている。

治郎吉が窮民となった経緯であるが、大久保伝右衛門が出した願には次のようである。治郎吉は自分の下で働いていたが、病気になったので暇を遣わした。解雇したということである。「其後何れへか罷り越し、行衛相ゆくえ知れ申さず候」ところ、教えに出かけた授産所で治郎吉を発見。団扇骨削りを教えて、「今一応仕込み候はば生活の道も相立つべし」と思われるので、下げ渡しをお願いしますとある。病気、失業等が流民になるきっかけであったことが治郎吉のケースから見て取れる。この時、治郎吉は16歳であった。治郎吉の下げ渡しは許可されている。大久保のこの拳は「伝右衛門は其身貧しくありながら、一人の窮民を救ひ出せしは更に感すべき事ならずや」として、『京都新聞』は同年10月、浅山愿からの投書という形で報道している。この1年後にも、大久保伝右衛門は授産所入所者の安吉の下げ渡しを願い出ている。安吉がどのような経緯

で入所したのかわからない。安吉の場合も、下げ渡しは許可されている。安吉の時も『京都新聞』は取り上げ、「伝右衛門の如きものはよく当今の御主意を奉戴し、窮民二名までも民籍に復し真の良民となせり。実に感称すべき事なり」と報じている。「方今窮民中親族ある者も多かるべけれど、未だ此の如き願を出したるを聞かず」と治郎吉の記事中にあることから、入所者の三分の一が復籍している中で、治郎吉や安吉のようなケースは稀であったといえるのだろう。

開設10年後にあたる1880年（明治13）には、授産所の入所者は男51人、女7人であることが『京都日日新聞』に報じられている〔第6巻 422ページ〕。その後、授産所は1883年（明治16）2月、石田治兵衛外1名に払い下げられ、西陣共進織物会社となった。

興行等に対する課税

1870年（明治3）閏10月13日、窮民に対して授産の目的で開設される窮民授産所の費用を京都府は、諸興行から調達することとした。『京都の部落史』に収められている「府、窮民授産所を設置し費用を諸興行より調達することにする」と綱文が付されている史料〔第6巻 411ページ〕がこのことを詳しく伝えてくれる。

窮民授産所に収容する窮民は前記した通り、「不慮の不幸より生国を離れ、諸国に流落、乞食に陥り候もの少なからず。右等は生れながらの非人にもこれなく、其薄命ひとしあわれ一入 愍ませられ…」としたことからわかるように「生活に困った平民」であり、穢多や非人等は除外された。京都府ではこのような境遇に立ち至った窮民と比べ、「遊興浮業を以て安穩に今日を送り候」者は、この度の「厚き思召しの旨」を理解し、売上金の20分の1を納めることを命じた。

課税対象とされた業者であるが、角力頭取、遊所男女芸者、遊女、芝居名代の者、諸席名代の者、借馬渡世、揚弓損料渡世、本弓損料渡世、半弓損料渡世、吹矢並からくり的渡世、席貸渡世、髪結渡世、芝居茶屋渡世であった。相撲、芝居、寄席、見世物等を興行する者のほかに遊興娯楽業者や借馬業や髪結業などのサービス業者が対象となっている。

京都府では、窮民授産所への出金を命じた前月、上

記業者のうち、芝居名代、席名代、揚弓、本弓、半弓、吹き矢並びにからくり、席貸し、借馬業者に対して「今度改鑑札相渡候」としている。鑑札下付の業種とされたものは芸能興行及び遊興娯楽業であった。窮民授産所費用として課税が決められた時、これ等の業種に加えて、角力頭取、遊所男女芸者、遊女、髪結、芝居茶屋も鑑札交付の対象になった。

鑑札であるが、新規開業の場合は府に出願して鑑札を受ける事とした。また、休業の場合は鑑札を府に返納すること、他への転貸しもあわせて禁止している。府が指定した業種以外でも「遊び体に付、人を集め木戸銭・見料等を取るの業」に対してもその都度出願して免許を取った上興行することとした。このことは、京都で興行を行う場合は、興行主は京都府から鑑札を受けなければならないということである。

さらに、集金に不正を行なうことは勿論、「銘々の分限を偽り、出金の減省を計る」等に対しては「罰重の法」で処するという条項もあり、納入に不正を働く場合は厳罰をもって臨むことが明記されている。

「遊興浮業」と決め付けられた興行等に対する京都府の厳しい姿勢がうかがえるのではないだろうか。

むすび

流民対策として開設された窮民授産所は、前記したとおり1883年（明治16）2月、石田治兵衛等に払い下げられている。このことはもうこの時期には維新期の混乱をうけて出現した「流民」への対策を講ずる必要がなくなったことを物語っている。ところで、興行等に対して京都府はこの後どのような施策をとったのだろうか。

1873年（明治6）2月、^{らそつ}邏卒設置にあたり、京都府では興行関係者に対して課税を行っている。これに伴って、窮民授産所に対する課税を廃止した。この時もまた京都府はこれらの業者への課税について次のように告げている。

邏卒の仕事は「四民」が安全に仕事や生活を営むため社会秩序を守る仕事であるのだから「四民一般」が分担することと大蔵省からの達しもあったが、興行及び芸人は「邏卒の勤を煩す事少からず」ある故、興行関係業者に対して課税を行うとした。

角力、芝居興行主には売上げの10分の1、窮民授産所の際の2倍を課した。とりわけ厳しく課税されたのは、揚弓、本弓、半弓等の遊興業者で、これらの業者へは売上げの10分の2が課税されている。席貸、髪結、借馬、芝居茶屋には、窮民授産所の際と同率の売上げの20分の1を課している。

この時、新たに俳優、同振付師、操り人形遣、チョンガレ、昔噺、軍談等の芸人に対しても1カ月1円の「賦金」を課税している。前号で見た新京極を賑わした芸人達も課税の対象となった。東京府で芸人に税金を課したのは1875年（明治8）1月のことであるから、京都府はそれよりも2年余り早い課税といえる。さらに、これまで鑑札交付の対象となったのは芸能関係では興行主であったが、義太夫、新内、清元、常磐津、浄瑠璃等の芸人に対しても鑑札を受けるとした。

芝居興行に関しては、「実伝演劇之節八半減」とある。京都府は、1872年（明治5）、従来のような「恋慕事或八幽霊其外顛末不明」の芝居は開化に役に立たないとし、実事にに基づき、知識進歩の一助になる様な芝居興行を行うように四條芝居名代人を呼び出し説諭した。「実伝演劇」とはこの時、京都府が指示した勸善懲悪を踏まえ真を伝える芝居を指している。「実伝演劇之節八半減」ということは、開化に役立つ芝居に対しては優遇することを示したといえる。京都府の開化に益なき芸能に対する厳しい眼差しからも、当然の措置といえる。ともあれ、鑑札交付及び課税の施策を通してこの当時の京都府の芸能興行主や芸人に対する厳しい姿勢を読み取ることが出来る。

ところで、京都府の指示を受けて四條芝居名代は、同年7月、京都府に「四條両側芝居規則改正」を提出し、さらに、11月には南、北両側芝居ともサミュエル＝スマイルズの『自助論』の翻訳『西国立志編』（中村正直訳）の一節を上演している。行政側の意向に沿う形での芝居側の対応であったが、観客のうけは余り良くなかったのだろうか、実伝演劇は2年ほど興行されたにとどまったということである。（なかじま ちえこ / 京都部落問題研究資料センター運営委員）

収 集 図 書 (2002年4月～6月受入)

総記 図書

丸山家古文書目録 中山道塩名田宿本陣・問屋 (浅科村教育委員会編刊, 2002.3)

総記 逐次刊行物

時の法令 (財務省印刷局編刊, 2001.4～2002.3) No.1 640, 1642, 1644, 1646, 1648, 1650, 1652, 1654, 1656, 1658, 1660, 1662 「そのみちのコラム」 (灘本昌久著) 所収

総記 博物館

学歴社会と職業観 つくられる差別社会 (大阪人権博物館編刊, 2002.4) 展示解説図録

非核・非戦の願いに生きる [非戦・平和展パンフレット] (真宗大谷派刊, 2001.3)

闇から紡ぐ人と光 [「人権と文化」新宮フォーラム2000パンフレット] (「人権と文化」新宮フォーラム2000実行委員会刊, 2000.6)

蓮如上人の生きた時代 [パネル展パンフレット] 中世における民衆の生活 (真宗大谷派同和推進本部編, 真宗大谷派刊, 1998.3)

川の古代祭祀 五反島遺跡を考える (吹田市立博物館編刊, 2002.4)

ヒューマン・アルカディア特別展集 第4号 (福岡県人権啓発情報センター刊, 2002.3) 第11回特別展「男女がともに輝いて生きる社会を!」, 第12回特別展「在日韓国・朝鮮人と人権」の紹介

新しい常設展示の実現に向けて 第3次常設展示基本計画 (大阪人権博物館編刊, 2002.3)

吹田市立博物館館報 2 平成12年度版 (吹田市立博物館編刊, 2002.3)

部落問題 総記

朝倉重吉・米重関係資料目録 (信州農村開発史研究所編刊, 2002.3)

解放社会学研究 16 (日本解放社会学会編刊, 2002.3) : 2,000円

記号化する差別意識と排除の論理 (花園大学人権教育

研究室編, 批評社刊, 2002.3)

木村京太郎文庫目録 (世界人権問題研究センター編刊, 2002.4) 複写

啓発リーダーのために 人権問題指導者養成研修会に学ぶ (京都府同和对策室刊, 1997.3) 林屋辰三郎, 上田正昭, 川嶋将生, 寺木伸明, 秋定嘉和 他講演集

啓発リーダーのために 人権問題指導者養成研修会に学ぶ (京都府同和・人権啓発室刊, 1998.3) 秋定嘉和, 小林丈広, 源城政好 他講演集

講座・人権ゆかりの地をたずねて ボランティア人権ガイド養成講座 (世界人権問題研究センター編刊, 2002.3) 2001年度講演録

社会的な差別とはなにか (領家穰著, 大阪府雇用開発協会刊, 1982.4)

同和利権の真相 マスメディアが黙殺してきた戦後史最後のタブー (寺園敦史, 一ノ宮美成, グループ・K21編著, 宝島社刊, 2002.4) : 1,238円

文教ニュース 11 人権教育特集 (佐賀大学文化教育学部人権教育推進委員会刊, 2002.3)

部落問題 生活・聞き書き・伝記

朝田善之助全記録 50 (朝田教育財団刊, 2002.4) : 1,000円

気どらず続けてきましてん 私の解放運動五十余年 (河合周次著, 奈良県部落解放研究所刊, 2000.3) : 1,500円

地域通貨「仁」報告書 京都・崇仁における地域通貨の試み (2000年4月28日～8月31日) (地域通貨「仁」事務局刊, 2001.4)

屠場の世界 リリアンス・ブックレット10 (岸衛, 桜井厚著, 反差別国際連帯解放研究所しが刊, 2002.3)

部落問題 歴史

近世尾張の部落史 (愛知県部落解放運動連合会編刊, 2002.3) : 6,800円 執筆 木下光生

大和国宇陀郡岩崎村関係史料 (奈良県立同和问题関係史料センター編, 奈良県教育委員会刊, 2002.3) 奈良県同和问题関係史料第7集

部落問題 同和行政・実態調査

金屋町同和委員会30年の歩み（金屋町同和委員会広報編集委員会編，金屋町，金屋町同和委員会刊，2002.3）

京都市人権問題に関する意識調査報告書（世界人権問題研究センター刊，2002.2） 2000年調査

東京で人権を学ぶために 人権学習プログラムヒント集（東京都教育庁生涯学習部振興計画課刊，2002.3）

部落問題はいま…。部落解放基本法の制定をめざして 改訂版（鳥取市人権情報センター編，鳥取市刊，2002.3）

みんなの幸せをもとめて 同和問題をはじめ人権問題を学ぶために（東京都教育庁生涯学習部振興計画課編刊，2001.3）

みんなの幸せをもとめて 同和問題をはじめ人権問題を学ぶために（東京都教育庁生涯学習部振興計画課編刊，2002.3）

部落問題 解放運動

差別をなくする運動と教育の前進のために 第18集 第18回部落解放矢田地区研究集会報告書（第18回部落解放矢田地区研究集会実行委員会編，矢田同和教育推進協議会刊，2002.3）

全国水平社を支えた人びと（水平社博物館編，解放出版社刊，2002.4）

たしかな明日へ よき日のためにパート2（部落解放同盟京都府連合会千本支部刊，1987.3） 千本支部再建25年記念誌

部落解放研究第16回京都府集会討議資料（部落解放基本法制定要求国民運動京都府実行委員会刊，2002.6）

第46回部落解放全国女性集会報告書 解放をめざす女性活動（部落解放同盟中央女性対策部編，部落解放同盟中央本部刊，2002.2）

第49回部落解放同盟京都府連合会定期大会 議案書（部落解放同盟京都府連合会編刊，2002.4）

第46回部落解放同盟高知県連合会大会〔議案書〕（部落解放同盟高知県連合会刊，〔2002.1〕）

矢田同和教育推進協議会 2001年度活動報告書（矢田同和教育推進協議会編刊，2002.3）

2001矢田発「ほっとなお話」入選作品集（「矢田の

人権宣言」作成委員会準備会編，矢田同和教育推進協議会刊，2002.3）

許すな!「えせ同和行為」 改訂版（奈良県部落解放研究所編刊，2000.4）：1,000円

部落問題 教育

解放教育のアイデンティティ（解放教育研究所編，明治図書出版刊，1997.3，シリーズ解放教育の争点第1巻）：2,100円

解放教育のグローバル化（解放教育研究所編，明治図書出版刊，1997.10，シリーズ解放教育の争点第6巻）：1,995円

解放の学力とエンパワーメント（解放教育研究所編，明治図書出版刊，1998.2，シリーズ解放教育の争点第4巻）：2,310円

教育不平等 同和教育から問う「教育改革」（外川正明著，解放出版社刊，2002.4）：1,600円

小学校・中学校社会 同和教育基本資料 基礎的知識と学習展開案 第3版（東京書籍刊，2001.3）

小学校～中学校社会科学学習における同和問題にかかわる単元の指導 参考試案（小中同和問題指導プロジェクト，京都市教育委員会刊，2002.4） 人権教育指導資料集No.1

小学校における人権学習の展開に向けて 人権の視点から見た学習内容と国語科学習における試み（松下佳弘著，京都市教育委員会刊，2001.3） 平成12年度研究紀要2抜刷

小学校における人権学習の展開に向けて 2 男女平等についての学習プログラムと教科・領域における人権学習の内容（松下佳弘著，京都市教育委員会刊，2002.3） 平成13年度研究紀要1抜刷

人権教育資料（京都府総務部文教課刊，1998.3）

人権教育資料（京都府総務部文教課刊，2000.3）

人権教育の内容と方法に関する研究 4 人権教育を構想する 学びと実践と（大阪市教育センター刊，2002.3） 研究紀要第150号

地域教育システムの構築（解放教育研究所編，明治図書出版刊，1997.7，シリーズ解放教育の争点第5巻）：1,995円

同和教育資料補遺（京都府総務部文教課刊，1997.3）

同和・人権学習を基軸においた総合的な学習 2 地域連携を中心としたカリキュラム（大阪市教育センター刊，2002.3） 研究紀要第154号
 21世紀の学校教育推進指針 「教育総合推進地域事業」経過報告書（井手町教育委員会編刊，2002.2）
 人間解放のカリキュラム（解放教育研究所編，明治図書出版刊，1997.10，シリーズ解放教育の争点第3巻）：2,520円
 人間関係づくりとネットワーク（解放教育研究所編，明治図書出版刊，1997.3，シリーズ解放教育の争点第2巻）：2,100円
 ひとつのみち 2001年度版 人権学習 記録と資料（佛教大学人権問題委員会編，佛教大学刊，2002.3）
 まちづくりとしての地域教育 大学と地域の共育実践（後藤直編著，阿吽社刊，2002.4）

日本の差別問題

逆光の中の障害者たち 古代史から現代文学まで（後藤安彦著，千書房刊，1982.6）：1,320円 日本神話から現代映画までも対象に「障害者」の存在を掘りおこす
 蛭子，蝉丸，美女と野獣，グレゴール・ザムザ，ジョン・メリック他
 五体不満足 完全版（乙武洋匡著，講談社刊，2001.4）：514円
 女性芸能の源流 傀儡子・曲舞・白拍子（脇田晴子著，角川書店刊，2001.10）：1,200円
 性t o生 ジェンダーのはざまから（竹下小夜子著，沖縄タイムス社刊，1998.10）：1,800円
 多民族・多文化共生社会のための教育環境に関する調査研究 1 多国籍の子どもの多数在籍集団と少数在籍集団の子どもの意識（大阪市教育センター刊，2002.3） 研究紀要第151号
 女人禁制（鈴木正崇著，吉川弘文館刊，2002.3）：1,700円
 東九条マダン報告集 第9回（東九条マダン実行委員会編刊，2002.5）
 境界の輝き 日本文化の深層をゆく（五木寛之，沖浦和光著，岩波書店刊，2002.3）：1,500円
 歴史のなかの「癪者」（藤野豊編著，ゆみる出版刊，1996.4）：2,700円

宗教

感身学正記 1 西大寺叡尊の自伝（細川涼一訳注，平凡社刊，1999.12）：3,045円
 真宗思想史における「真俗二諦」論の展開（平田厚志著，龍谷学会刊，2001.3）

日本史

逸脱の日本中世（細川涼一著，筑摩書房刊，2000.6）：1,100円
 開国と幕末変革 日本の歴史第18巻（井上勝生著，講談社刊，2002.5）：2,200円
 成熟する江戸 日本の歴史第17巻（吉田伸之著，講談社刊，2002.4）：2,200円
 世界の文学 28 日本1 能、狂言、風姿花伝、閑吟集ほか（朝日新聞社刊，2000.1）：560円
 世界の文学 83 日本2 今昔物語集、宇治拾遺物語ほか（朝日新聞社刊，2001.2）：560円
 中世寺院の風景 中世民衆の生活と心性（細川涼一著，新曜社刊，1997.4）：2,500円
 中山道 武州・西上州・東信州 街道の日本史17（山田忠雄編，吉川弘文館刊，2001.11） 「賤民（制）廃止令と信州の被差別民」（斎藤洋一著）他所収
 中津村に塩名田節さんざめいて 明治・大正・昭和の風景 浅科村の歴史4（小林基芳著，浅科村教育委員会刊，2002.3）
 百姓一揆とその作法（保坂智著，吉川弘文館刊，2002.3）：1,700円 むしろ旗のもとに竹槍で武装 百姓一揆の通俗的理解を再検討する
 漂泊の日本中世（細川涼一著，筑摩書房刊，2002.1）：1,100円
 文明としての江戸システム 日本の歴史第19巻（鬼頭宏著，講談社刊，2002.6）：2,200円

社会科学

新しい社会 3・4 上，下（東京書籍刊，2002） 小学校社会科教科書
 新しい社会 5 上，下（東京書籍刊，2002） 小学校社会科教科書
 新しい社会 6 上，下（東京書籍刊，2002） 小学校社

会科教科書

新しい社会科地図 (東京書籍刊, 2002) 小学校社会
科教科書

新しい社会科地図 (東京書籍刊, 2002) 中学校社会
科教科書

新しい社会 公民 (東京書籍刊, 2002.2) 中学校社会
科教科書

新しい社会 地理 (東京書籍刊, 2002.2) 中学校社会
科教科書

新しい社会 内容解説資料 (東京書籍刊, 2002)

新しい社会 歴史 (東京書籍刊, 2002.2) 中学校社会
科教科書

国際化に対応する「大阪らしさ」を生かした総合的
な学習 2 子どもの学びを支える評価とその実際 (大
阪市教育センター刊, 2002.3) 研究紀要第155号

社会病理と社会問題 (中本博通編, 亜紀書房刊, 1974.
4)

犯罪被害者 いま人権を考える (河原理子著, 平凡社

刊, 1999.11) : 660円

芸能

芸能の文明開化 明治国家と芸能近代化 (倉田喜弘著,
平凡社刊, 1999.12) : 2,600円

祝福する人々 (平凡社刊, 1990.12) 音と映像と文字
による大系日本歴史と芸能第12巻 三河萬歳,尾張萬歳,会
津万歳,秋田万歳,越前万歳,伊予万歳,三曲万歳,伊勢大神
楽,佐渡の春駒,下福沢の七福神,八戸のえんぶり,山屋の
田植踊 複写

言語

英語の語彙 (小谷晋一郎著, 龍谷学会刊, 2000.3) 本
文は英語 タイトル「ENGLISH WORDS」

文学

中上健次と読む『いのちとかたち』 山本健吉著
前 ([中上健次資料収集委員会] 編刊, 2002.3)

収集逐次刊行物目次 (2002年4月~6月受入)

~各逐次刊行物の目次の中から編集部判断でピックアップしました~

明日を拓く 42 (東日本部落解放研究所刊, 2002.1) :
1,000円

特集 同和对策事業33年を検証する (1)

同和对策事業をふりかえる 松島一心さんインタビュー
/ 大きく変容しつつある同和地区のまちづくりが今後
の日本のまちづくりに示唆すること 内田雄造, 大谷英
二

法律の現場における部落問題 大谷恭子

東京の被差別部落とキリスト教 19世紀後半におけるブ
ロテスタント・キリスト教の諸活動に関する史料 友寄景
方

跡地発 17 (街づくり推進協議会刊, 2002.4)

十人十色の部落問題 10 男らしさという名の差別 佐倉智
美

IMADR-JC通信 118 (反差別国際運動日本委員会刊, 200
2.5) : 500円

本の紹介 『ミシシッピを知ると矛盾大国アメリカが見え

てくる』 (神林毅彦著)

ウィングスきょうと 49号 (京都市女性協会刊, 2002.
4)

コミックで考えるジェンダー 「...すぎなレボリューショ
ン」 (小池田マヤ著)

図書情報室新刊案内

『仕事と家庭と幸福感 北欧・東欧5大都市の比較調査』
(エリナ・ハーヴァオーマンニラ著) / 『ジェンダー
は科学を変える!?』 (ロンダー・シーピング著) /
『家なき鳥』 (グロリア・ウィーラン著) / 『女性の
ためのサブプリブック』 (シャリ・リーパーマン著)

ウィングズきょうと 50号 (京都市女性協会刊, 2002.
6)

コミックで考えるジェンダー 『私たちは繁殖している』
(内田春菊著)

図書情報室新刊案内

『女性雑誌に住まいづくりを学ぶ 大正デモクラシー

- 期を中心に』(久保加津代著) / 『ダイニング・キッチン』(北川圭子著) / 『男女平等教育』(柳田眞澄著) / 『ジェンダー化される身体』(荻野美穂著)
- 大阪の部落史通信 29(大阪の部落史委員会刊, 2002.3)
『大阪の部落史』第4巻, 刊行 北崎豊二
書評と紹介
『和泉国かわた村支配文書 預り庄屋の記録』下巻(藤本清二郎編) 中尾健次 / 『河内 社会・文化・医療』(森田康夫著) 山中浩之
- 岡山部落解放研究所報 229号(岡山部落解放研究所刊, 2002.3) : 100円
情報と人権 インターネット差別事件の教訓をどう活かすのか 岡山県同和教育研究協議会
人権擁護法案について(1) 若林義夫
岡山部落解放研究所報 230号(岡山部落解放研究所刊, 2002.4) : 100円
部落史拾遺 楽戸をめぐって(上) 好並隆司
人権擁護法案について(2) 若林義夫
岡山部落解放研究所報 231号(岡山部落解放研究所刊, 2002.5) : 100円
人権擁護法案について(3) 若林義夫
部落史拾遺 楽戸をめぐって(下) 好並隆司
解放教育 413(解放教育研究所編, 2002.5) : 700円
特集 子どもと向きあい、ともに歩む 日教組51次全国教研・人権教育分科会から
調査に見る素顔のいまどき高校生11 隠されたカースト 鍋島祥郎
解放教育 414(解放教育研究会編, 2002.6) : 700円
特集 21世紀を拓く学力保障のストラテジー 生きる力となる学ぶ力を
調査に見る素顔のいまどき高校生12 部落生徒の進路にたちはだかるもの 鍋島祥郎
図書紹介
『私を創ったもの いのちの輝きを綴る』(土田光子著) 森実 / 『「色覚異常」を正しく理解するために(増補改訂版)』(大分県同和教育研究協議会編)
高校から総合学習を創る(1) 未知との遭遇 出会い(エンカウンター)との出会い 平野智之
解放教育 415(解放教育研究所編, 2002.7) : 700円
特集 人権総合学習の実践的展開 視座と方法・手法を中心に
人権総合学習の方法論 森実 / 人権総合学習で確かな学力の保障を 外川正明
調査に見る素顔のいまどき高校生13 寝た子は育つか 鍋島祥郎
図書紹介 『学び合い育ち合う学習集団づくり』(豊田ひさき著) 園田雅春
高校から総合学習を創る(2) 小さな体験、大きな学び 体験的に学ぶとは何か 平野智之
解放研究 15号 / 明日を拓く 43号(東日本部落解放研究所刊, 2002.3) : 2,000円
特集 歴史と解放への営みから
下野国の近世被差別民 宇都宮地方を中心にして 坂井康人 / 全国水平社創立への疾走 平野小剣研究2 朝治武 / 芝新網町とキリスト教 19世紀末から20世紀末初頭, 日本聖公会の活動 友寄景方
ある被差別部落の歴史と伝承 長野県・丸子町から 小林大二
解放研究しが 12号(反差別国際連帯解放研究所しが刊, 2002.5) : 1,000円
特集 人権教育の実践
今、ここに「差別」がある とともに悩み、歩むことから 多賀正信 / 「壁」を越えて 「コミュニケーション・カード」を読み返す 岸衛
調査を断られるとき 『被差別部落への5通の手紙』補遺 2 三浦耕吉郎
月刊解放の道 219号(全国部落解放運動連合会刊, 2002.4) : 350円
特集 人権擁護法案に反対する
言論表現の自由及び私的自治を侵す「人権擁護法案」に反対する 全国部落解放運動連合会中央執行委員会 / 人権擁護法案の反人権性 村下博 / 人権擁護法案の問題点 井上洋子
月刊解放の道 220号(全国部落解放運動連合会刊, 2002.5) : 350円
シンポジウム 水平社創立80周年と部落解放運動の発展的

転換

月刊解放の道 221号(全国部落解放運動連合会刊, 2002.6): 350円

特集 人権擁護法案に反対する

人権擁護法案の問題性 岩間一雄 / 人権擁護法案の批判的検討 「差別的」言動等条項をめぐって 渡辺久丸 / 確実な廃案へ, 法案の本質に迫る議論を 中村五雄

かわとはきもの 119(東京都立皮革技術センター台東支所刊, 2002.3)

靴の歴史散歩64 稲川實

シリーズ足の機能に障害がある人の靴 4 アメリカにおける足と整形靴の専門家 大野貞枝

皮革関連統計資料

関西学院大学人権研究 6号(関西学院大学人権教育研究室刊, 2002.3)

19世紀の工業都市ウッジにおける民族的共生 多民族社会ポーランドの一側面 藤井和夫

社会意識としての差別意識とは 「部落」差別問題をめぐる課題から 日野謙一

医療と人権 自己選択権をめぐって 窪寺俊之

被差別部落の名称問題に関わって 小島達雄

書評 『屠場文化 語られなかった世界』(桜井厚・岸衛編) 安保則夫

紀州経済史文化史研究所紀要 22号(和歌山大学紀州経済史文化史研究所刊, 2002.3)

特集 歴史教科書・郷土教育資料の作成

教科書問題とアジア 副島昭一 / 中学校歴史教科書を考える 「社会史」とジェンダー史の視点から 天野(重松)知恵子 / 歴史教科書と歴史教育 川本治雄

紀州藩牢番頭仲間の家系と奉公株 藤本清二郎

季節よめぐれ 173号(京都解放教育研究会刊, 2002.6)

学力向上の要因を明らかにし, 同和教育・人権教育の今後の方向を探る 鍋島祥郎

季節よめぐれ 174号(京都解放教育研究会刊, 2002.7)

水平社運動史から学ぶもの 金井英樹

京都市政史編さん通信 9号(京都市市政史編さん委員会刊, 2002.3)

1950年京都市長・京都府知事選挙と芦田均 『芦田均日記』を手掛かりに (下) 佐野方郁

市村慶三と京都 秋元せき

グローブ 29(世界人権問題研究センター刊, 2002.4)
女性たちの全国水平社 1 "男らしき産業的殉教者"と作家・住井すゑさん 福田雅子

朝鮮通信使 5 雨森芳洲の人と仕事 仲尾宏

役に立つ喜び 山路興造

奈良本辰也記念文庫の開館 仲尾宏

研究所通信 286(部落解放・人権研究所刊, 2002.6): 100円

水平運動史研究の方向と課題 朝治武

研究紀要 8号(奈良県立同和問題関係史料センター編, 2002.3)

近世中期, ある「穢多」村の構造的変容 宇陀郡岩崎村の18世紀 奥本武裕

奈良県における部落改善事業と水平社運動 井岡康時

大和万歳祖神考 吉田栄治郎

「夙の由緒」研究一試論 中世を視野に入れて 山村雅史

高麗美術館館報 54号(高麗美術館刊, 2002.4): 300円

美術随想4 渡来人の美の足跡 猿橋 備仲臣道

こべる 110(こべる刊行会刊, 2002.5): 300円

部落に根づく「被差別の文化」 すみだいくこ

こべる 111(こべる刊行会刊, 2002.6): 300円

複合差別とアイデンティティ 「解放」って何だろう? 福岡ともみ

「法切れ」にあたって思うこと 熊谷亨

ジュニアをなめたらあかんで 吉田智弥

こべる 112(こべる刊行会刊, 2002.7): 300円

物の時代の終焉 山田晏弘

不適切な表現 吉田智弥

雑学 25号(下之庄歴史研究会刊, 2002.5): 800円

特集 同和教育

解放保育運動の経過と今後 岡田佐代子 / 21世紀を切り

拓く人権教育の創造を 中村衛 / 豊かにつながる地域社会

づくりを~ 奈同推教のこれから~ 三谷誠一 / 高同教

(現、高人教)のあゆみと今後に向けて 永安直子 / 奈良

県大学同和教育研究協議会の歴史と今後の課題 田中

豊

- 自由闊達に生きた人々 6 ときには異能者として 上野茂
- 上熊野地の呻... 新宮部落史年表作成に関わって 4 研究課題と問題点 守安敏司
- 差別とたたかう文化 25(「差別とたたかう文化」刊行会刊, 2002.6): 400円
- 吹田事件を考える事とは? 西村秀樹
- 座談会「吹田事件50年」朝鮮人の燃える思い
- 鼎談 特別措置法 部落と沖縄 師岡佑行・土方鐵・溝上瑛
- 狭山差別裁判 340号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2002.4): 300円
- 特集 異議申立棄却決定を批判する
- BOOK 『裁判官のかたち』(毛利甚八著)
- 狭山差別裁判 341号(部落解放同盟中央本部中央狭山闘争本部刊, 2002.5): 300円
- BOOK 『<うそ>を見抜く心理学 「供述の世界」から』 浜田寿美男
- 月刊滋賀の部落 334号(滋賀県同和問題研究所刊, 2002.4): 400円
- 日野町事件 阪原弘さんはなぜ犯人にされたのか 玉木昌美
- 「同和行政の見直し」を検証する 川嶋重信
- 月刊滋賀の部落 335号(滋賀県同和問題研究所刊, 2002.5): 400円
- 書籍紹介 『やき山村ご一新物語』(平井清隆著)
- 月刊滋賀の部落 336号(滋賀県同和問題研究所刊, 2002.6): 400円
- どうなった、どうする「同和行政」の終結(下) 鈴木勉市
- 史料センター事業ニュース 8号(奈良県立同和問題関係史料センター刊, 2002.3)
- 研究あれこれ 水分の神の祭りと被差別部落 吉田栄治郎
- 人権21 調査と研究 157号(岡山部落問題研究所刊, 2002.4): 650円
- 差別書き込みと「2ちゃんねる」(上) 岩間一雄
- 本の紹介 小説『凱風快晴』(三宅陽介著)を読んで 佐藤一人
- 安岡文学における「家系」について 魏 【ゆう】原
- 資料は語る6 倉敷村の牢番(6) 大森久雄
- 人権教育研究 10号(花園大学人権教育研究室刊, 2002.3)
- 人権教育研究室前史 服部敬
- 同性愛者排除の論理キリスト教における「罪」概念の引用への一考察 堀江有里
- 「世間」考(その1) 吉田智弥
- アメリカ仏教の社会史1 島崎義孝
- 精神障害と事件 浜田寿美男
- スポーツにおける差別 タイガー・ウッズとその父の場合 中村樗
- 日本仏教史に見える悪人観について 弥勒信仰と阿弥陀信仰 森本泰弘
- 「第2世代の部落問題」への視座 八木晃介
- 人権・同和教育センターReport 10号(三重県人権・同和教育センター刊, 2002.5)
- 人権学習をすすめる際にフィールドワークはどれくらい実施されているか 県内中学校の実施状況調査から
- 人権・同和教育センターReport 11号(三重県人権・同和教育センター刊, 2002.5)
- 食・暮らし・ひと 知恵と工夫の食文化
- 人権・同和教育センターReport 12号(三重県人権・同和教育センター刊, 2002.5)
- 新渡日外国人の子どもたちの進路を保障するために
- 人権と平和ふくやま 9号(福山市人権平和資料館刊, 2002.3)
- 21世紀に到達した人たち 藤井来二
- 原爆展『被害と加害のヒロシマの実相』に取り組んで 山下真澄
- 被爆下の街であった部落差別 下原隆資
- 朝鮮人被爆者が問うヒロシマ 李実根
- 中世草戸千軒町の人々の死穢観を考える 草戸千軒町の発掘調査報告書に見る 堤勝義
- 人権と部落問題(「部落」より改題) 688(部落問題研究所刊, 2002.4): 630円
- 特集 教育基本法の「改定」
- ふつうの親ができることは 教育基本法「改正」問題への意見 蒔田直子
- 「映画」でみる子どもの権利 1 「子どもの権利条約」前

文 丹波正史

文芸の散歩道 人民戦線結成へのはるかなる夢 中西伊之助「筑紫野写生帳」 秦重雄

本棚 『近世身分制と被差別部落』（脇田修著）内田九州男

川端分館の頃 私の自伝的な回想 その1 三代の理事長 東上高志

人権と部落問題 689（部落問題研究所刊，2002.5）：630円

特集 憲法が危ない

同和行政の永続化を宣言した京都市 「同和対策事業の終結とその後の取組」批判 山本良人

世界の人権問題 2 イギリスにもあった「解放教育」 サッチャー「教育改革」で標的にされた「反人種差別教育」

松本公忠

「映画」でみる子どもの権利 2 『17歳のカルテ』『ザ・ハリケーン』『クレイマー、クレイマー』『人生物語』

丹波正史

文芸の散歩道 北原泰作と文芸 幕末小説と農民文学 桑原律

川端分館の頃 私の自伝的な回想 2 文化厚生会館事件 東上高志

人権と部落問題 690（部落問題研究所刊，2002.6）：630円

特集 同和行政の歪み

徳島化製事業協業組合への「ヤミ補助金」 徳島県60億円の返済を補助金で肩代わり?! 富山博司 / 和歌山県

同和の「負の遺産」を残さない 金田真 / 奈良県 同和

高度化資金未返済問題と疑惑解明の取り組み 今井光子

三好文庫研究会の活動紹介 部落問題研究の発展をめざして 西尾泰広

「映画」でみる子どもの権利 3 『子どもころ戦争があった』『リトル・トリー』『あの子を探して』 丹波正史

文芸の散歩道 『破戒』改訂にみる自主規制 川端俊英

人権21 調査と研究 158（岡山部落問題研究所刊，2002.6）：650円

私の「2ちゃんねる」擁護論 岩間一雄氏の「差別書き込みと『2ちゃんねる』」（上）を読んで 杉山陽子

差別書き込みと「2ちゃんねる」（下） 岩間一雄

中学公民の人権にかかわる記述 藤野修二

本の紹介 『雑草の記 クラレ人権闘争の12年』（中元輝夫著）を読んで 清野忠昭

中世の窓から 荘園の風景 2 備前国香登庄 田中修實 人権ふくおか 2号（福岡県部落解放・人権研究所刊，2002.3）：800円

シンポジウム 差別の現実からともに生きる人間や社会のありかたを考える

私の被差別体験と解放運動 組坂繁之

事業法前後の部落差別の変化と解放運動 森山沾一

地雷の被害とカンボジアの現状 大谷賢二

チャイルドラインからみえてくる子どもの姿 下川京子

男女共同参画社会と高校現場の状況 志岐玲子

「同和」教育を学校で取り組む意義とこれからの方向 新谷恭明

これからの同和教育 小西清則

月刊人権問題 304（兵庫人権問題研究所刊，2002.4）：350円

社会構造の激変と地域住民運動の展開 丹波正史

月刊人権問題 305（兵庫人権問題研究所刊，2002.5）：350円

近代の社会的差別 60 友愛会の歴史的意義と社会事業14

布川弘

月刊人権問題 306（兵庫人権問題研究所刊，2002.6）：350円

部落解放運動の発展的転換をめぐる 杉之原寿一

部落解放運動の転換を組織的観点により検討する 森元憲昭

部落解放運動の発展的転換を構想する 中島純男

人権問題研究 24（大阪市立大学人権問題研究センター編，2002.3）：1,500円

「在日」にとって「民族」とは？ 戴エイカ

大学教育における日常性批判の可能性について：大学生対象の「在日朝鮮人論」の事例の自己分析 倉石一郎

韓国クラブの移民労働者：大阪ミナミのエスノグラフィー Haeng-ja Chung

1930年代における母役割の再編 古久保さくら

バングラデシュの清掃労働者地区の社会階層的位 野口道彦

結婚差別のゆくえ：大阪府『同和問題の解決に向けた実態等調査報告書』調査結果から 齋藤直子

日系とノーセイ：ジャパニーズアメリカンにとってのポスト明治的諸概念 ジム・オクツ 訳：鍋島祥郎

医学・医療の進歩と倫理委員会の役割 要田洋江・前田均
信州農村開発史研究所報 78・79号（信州農村開発史研究所刊，2002.1）

怒りと「吐き気」の現実 インターネット差別事件 高橋典男

長野県水平社本部会館建設計画 斎藤洋一

信州農村開発史研究所報 80号（信州農村開発史研究所刊，2002.4）

矢島の石尊さま 佐藤敬子

水平社博物館研究紀要 4号（水平社博物館刊，2002.3）：1,000円

全国水平社創立期における阪本清一郎 駒井忠之
可能性の運動体 燕会から水平社へ 井岡康時
史料紹介 『同和通信』・「現下の三大問題についての識者の意見」 金井英樹

月刊スティグマ 77（千葉県人権啓発センター刊，2002.4）：500円

特集 差別語

差別語とはどんなものか もりすぐる / 差別落書きに対する対応について 部落解放同盟千葉県連合会 / 時として人を傷つける言葉 主に知的障害者の立場から 中邨淑子 / 女性問題の視点から見た差別的な言葉 浦野美智子

世界人権宣言大阪連絡会議ニュース 236（世界人権宣言大阪連絡会議刊，2002.4）

「水平社宣言」が語りかけるもの 朝治武

同和教育 481（全国同和教育研究協議会編，2002.4）：150円

人権文化を拓く 62 同性愛が人権問題になった！ 鈴木ケン

同和教育 482（全国同和教育研究協議会編，2002.5）：150円

人権のまちをゆく 10 「人権のふるさと」御所市柏原北方

人権文化を拓く 63 「奉仕活動」か「ボランティア活動」か 早瀬昇

同和教育 483（全国同和教育研究協議会編，2002.6）：360円

人権教育の時代とこれからの同和教育のために 寺澤亮一
同和教育は人間解放の教育 この確かさと誇りをさらに
中山英一

同和教育論究 23（同和教育振興会刊，2002.3）

本願寺教団と部落差別 谷元昭信

己の差別をかえりみて 雑賀正晃

すでに暁となりぬと知るべし 森本覚修

ハンセン病差別から見えるもの 棚原正智

還浄運動をどう評価するか？ 反差別運動における現場と
教学の往復運動覚書 沖和史

『同朋運動史資料』人名索引 その1

『同和はこわい考』通信 156（藤田敬一刊，2002.4）

採録 『「オカマ」は差別か 「週刊金曜日」の「差別表現」事件』（伏見憲明ほか著）

『同和はこわい考』通信 157（藤田敬一刊，2002.5）

採録

「驚き」（岡田豊『三重・同炎の会通信』02/3） /

「第23回定期大会議案書」（全横浜屠場労組，01/11）

はらっぱ 217（子ども情報研究センター刊，2002.4）：700円

私の本棚

『はなのすきなうし』（マンロー・リーフ文） / 『常識不信～子どもたちの心の叫びと編む私たちの変遷』（Crush & Creation編）

はらっぱ 218（子ども情報研究センター刊，2002.5）：700円

特集 『聴く』チカラ

私の本棚

『はじめてのおつかい』（筒井頼子作） / 『ブルーデイブック』（ブラッドリー・トレバー・グリーブ著）

はらっぱ 219（子ども情報研究センター刊，2002.6）：700円

私の本棚

『いかにして自分の夢を実現するか』（ロバート・シュラー著） / 『パスワード 春夏秋冬（上）』（松原秀行著）

ヒューマンライツ 169（部落解放・人権研究所刊，200

2.4) : 525円

現代史の目8 戦時下の動物処分 小山仁示

玲子さんの映画批評 「ロード・オブ・ザ・リング」(ピーター・ジャクソン監督) 川西玲子

ヒューマンライツ 170 (部落解放・人権研究所刊, 2002.5) : 525円

武者小路公秀回想記 1 武者小路公秀

現代史の眼 9 戦場へ行ったナースたち 小山仁示

黒人大学で学ぶ 1 52歳で黒人大学に入学 すみだいくこ

図書紹介 『現代の人権法と人権行政』(高野眞澄著)

友永健三
玲子さんの映画批評 「ブラックホーク・ダウン」(リドリー・スコット監督) 川西玲子

ヒューマンライツ 171 (部落解放・人権研究所刊, 2002.6) : 525円

武者小路公秀回想記 2 武者小路公秀

現代史の眼 10 六・七空襲の激烈性 小山仁示

黒人大学で学ぶ 2 奴隷の子孫と呼ばれたくない すみだいくこ

玲子さんの映画批評 「鬼が来た!」(姜文監督) 川西玲子

最近読んだ本

『企業経営と倫理監査 企業評価3つのアプローチ』
(貫井陵雄著) / 『「対テロ戦争」とイスラム世界』
(板垣雄三編) / 『自分を信じて生きる~インディアンの方法~』
(松木正著) / 『日本における差別と人権 第4版』(部落解放・人権研究所編)

ひょうご部落解放 104号 (兵庫部落解放研究所刊, 2002.3) : 1,000円

公募研究・指定研究報告

女性が望むサポートとメンタルヘルスの研究会 皇甫康子, 谷添美也子, 高順子, 米田千代子 / 総合的な学習を視野に入れた人権教育(同和教育)のための文化地図づくり 浅尾篤哉, 池田勝雄, 白川智喜, 吉田和弘 / 福祉サービス提供事業と人権コミュニティづくり 大賀重太郎 / 隣保館活動を軸とした人権コミュニティの創造にむけて 杉本章 / 混住の実態と今後の同和地区のインナーエリアとしての役割について 古山知己, 鮫島一泰 / 『兵庫県同和教育関係史料集』保存追跡調査

高木伸夫

部落解放 501号 (解放出版社刊, 2002.5) : 630円

特集 性の多様性を考える

座談会 多様な性と生をいきる / 今も日記帳にある言葉 戸籍の性別訂正を求めて 虎井まさ衛 / 等身大の自己を取り戻す セクシュアルマイノリティ教職員ネットワークの設立とそのめざすもの 高取昌二

東京音楽通信 歴史と命の結晶=宮古島歌謡 国吉源次 藤田正

やっぱり今この本を 24 『よあけまで』(曹文軒作, 中由美子訳, 和歌山静子絵) 今江祥智

「軽度」障害者という「どっちつかず」のつらさ 田垣正晋

ネパールの「不可触民」 サルキ 上原善広

部落解放 502号 (解放出版社刊, 2002.5) : 1,050円

反人種主義・差別撤廃世界会議と日本

「沖縄」を「先住民族」という概念で考える 喜久里康子 / ジェンダーと人種差別の「交差」=「複合差別」 熊本理抄

部落解放 503号 (解放出版社刊, 2002.6) : 630円

特集 「心神喪失者医療観察法案」を批判する

映像フリースペース 「海は見ていた」(熊井啓監督)

白井佳夫

東京音楽通信 「イムジン河」の復活 藤田正

やっぱり今この本を 25 『トリツカレ男』(いしいしんじ著) 山下明生

本の紹介

『部落の21家族 ライフヒストリーからみる生活の変化と課題』(部落解放・人権研究所編) / 『教育不平等 同和教育から問う「教育改革」』(外川正明著)

水平社ゆかりの地をたずねて 北村綾子

連載 部落民でいこう! (1) 浦上の海人 山本浩二郎 上原善広

「水平社宣言」はだれが書いたのか 成立過程、執筆者群像、運動参加分岐点を明らかにする 宮崎芳彦

連載 近代の奈落を歩く 21 帝都から析出されてきたニューリーダー 水平線上の赤と黒(上) 宮崎学

部落解放 504号 (解放出版社刊, 2002.7) : 630円

特集 虐殺された行商人福田村事件の真相

福田・田中村事件が問いかけるもの 石井雍大 / 行商
香川の部落産業 喜岡淳 / 座談会 一行はなぜ襲われたのか

アメリカ・レポート 21世紀の人権運動18 体形差別禁止の声の高まり、条例で初の和解も 柏木宏

映像フリースペース 「チョコレート」(マーク・フォスター監督) 白井佳夫

東京音楽通信 オキ『ノーワンズ・ランド』 アイヌのステレオタイプから外れて 藤田正

やっぱり今この本を 『絵本パパラギ はじめて文明を見た南の島の酋長ツイアビが話したこと』(和田誠構成・絵) 今江祥智

本の紹介

『まちづくりとしての地域教育 大学と地域の共育実践』(後藤直編著) / 『幼児期からの人権教育 参加体験型の学習活動事例集』(ラルフ・ペットマン編著) / 『生活保護50年の軌跡』(『生活保護50年の軌跡』刊行委員会編) / 『Q&Aで学ぶ女性差別撤廃条約と選択議定書』(米田眞澄・堀口悦子編著)

「歴史・文化・人権」のフィールド・和泉へようこそ 吉岡隼平

部落差別の有無に関する議論(上) 部落差別を構造的にとらえるために 江嶋修作

ケガレを見直す 上井俊記

竹箴づくり 部落が支えた技術 川元祥一

連載 近代の奈落を歩く 22 純水平運動と階級的な水平運動 水平線上の赤と黒(中) 宮崎学

部落解放運動情報 64号([部落解放運動・情報]編集委員会刊, 2002.3): 300円

こんな本がでています

『日本人のこころ4』(五木寛之著) / 『知事のセクハラ 私の闘い』(田中萌子著)

部落解放運動情報 65号([部落解放運動・情報]編集委員会刊, 2002.5): 300円

こんな本がでています 『がんばらない』(鎌田實著)

部落解放研究 145号(部落解放・人権研究所刊, 2002.4):

特集 地域福祉計画と人権・部落問題

部落解放とこれからの地域福祉計画のあり方について

大阪府における「地域福祉推進研究会」の取り組みを中心に 玉置好徳 / 「社会的援護を必要とする人々の社会福祉のあり方検討会」報告書の意義と今後の課題 福祉国家のゆらぎとその行方 大谷悟 / 欧州における社会的排除との闘い その動向と課題 福原宏幸 教育コミュニティづくりの展開と課題 貝塚市立第二中学校区を事例として(上) 濱元伸彦, 大田美穂子 私たちのまちづくり NPOフュージョン長池のチャレンジ 富永一夫

資料 社団法人関西経済連合会 企業と社会委員会『企業と社会の新たな関わり方 地域社会の活性化に向けて 2001年3月』(抄)

差別的固定観念を破って経済活性化へ 女性起業家支援の試み 伊藤衆子

書評

『近世芸能興行と地域社会』(神田由築著) 藤沢靖介 / 『協働の教育による学校・地域の再生』(大阪大学大学院人間科学研究科池田寛研究室編) 越田幸洋 /

『部落の21家族 ライフヒストリーからみる生活の変化と課題』(部落解放・人権研究所編) 森山沾一

部落解放ひろしま 58号(部落解放同盟広島県連合会刊, 2002.5): 1,000円

特集 検証 広島県における差別実態(1)

取り残される環境改善事業 島嶼部大柿町の実態 / 部落出身児童・生徒の進路は今後どうなっていくのか~数字に見る格差の実態~ / 部落差別の実態と行政課題 丸亀英二 / 因島市同和地区生活実態調査から見えるもの

解放運動的人間像 3 自己疎外からの脱却こそ 小森龍邦

日本文化の因習を考える(15) 「仏教教団の因習・習俗」を問う射程(7) 西本願寺の長子相続制度 小武正教

部落解放史ふくおか 105号(福岡部落史研究会刊, 2002.3): 1,050円

特集 農村部落の近代

堺利彦農民労働学校(1) 農村社会運動の諸相 小正路淑泰 / 向田をめぐる解放運動と民俗(1) 解放運動

編 香月靖晴 / 史料紹介 『優良部落視察概要』(岡山県内務部社会課編) 解題 白石正明 資料紹介 近世民衆史の泉(42)

書評 『水平社の原像』（朝治武著） 田原行人
 みちくさ 18（大阪大学部落解放研究会刊，2002.3）
 解放運動×NPO＝？ 大阪府和泉市での実践 吉岡隼平
 「人権・部落解放を”熱く”語る全国若者交流集会」
 （H2O）のはじまり 川口泰司
 荒廃する教育現場「国立大学」の再生はあるか？～大阪
 大学「明道館」で起きた出来事～ 長谷川美穂
 書評 『キャンパス・セクシュアル・ハラスメント対応ガ
 イド』（沼崎一郎著） 福嶋順
 民権協ニュース 135（在日韓国民主人権協議会刊，200
 2.2）：300円
 書籍紹介 『マンガンぱらだいす』（田中宇著）
 民権協ニュース 136（在日韓国民主人権協議会刊，200
 2.3）：300円
 書籍紹介 『介助犬 シンシア』（木村佳友と毎日新聞阪
 神支局取材班編）
 民権協ニュース 137（在日韓国民主人権協議会刊，200
 2.4）：300円
 書籍紹介 『天皇の逝く国で』（ノーマ・フィールド著）
 もやい ながさき部落解放研究（長崎県部落史研究所
 刊，2002.3）：700円
 差別とキリシタンの三つの事件 結城了悟
 部落問題学習実践交流会を終えて 川英治，林田賢作
 オットー・モーニケ 『日本人』 翻訳 園田尚弘
 史料紹介 『行政裁判所判決録』から 屠畜営業権をめぐる
 浦上山里村の訴え 石瀧豊美

『犯科帳』史料紹介 「部落」史関連記事 山下信哉
 Rights ライツ 35（鳥取市人権情報センター刊，2002.
 4）
 今月のいちおし 『時の響きて』（福安かずこ文，吉井優
 子・福安かずこ絵） 清水祐加
 Rights ライツ 36（鳥取市人権情報センター刊，2002.
 5）
 今月のいちおし! 『性to生 ジェンダーのはざまから』
 （竹下小夜子著）
 Rights ライツ 37（鳥取市人権情報センター刊，2002.
 6）
 今月のいちおし! 『カシコギ』（趙昌仁著） 坂根政代
 立命館大学国際平和ミュージアムだより 25号（立命
 館大学国際平和ミュージアム刊，2002.3）
 ミュージアムおすすめの一冊 『日本の植民地支配 肯定・
 賛美論を検証する』（水野直樹，藤永壮，駒込武編）
 立命館平和研究 立命館大学国際平和ミュージアム
 紀要 3号（立命館大学国際平和ミュージアム刊，2002.
 3）
 特集 手塚治虫 世紀をつなぐ作品とメッセージ
 過去に誠実に向き合う 和解と共生をめざして 安育育郎
 消し去られた文字 「満洲国」における検閲の実相 岡田
 英樹
 学童集団疎開が人員疎開政策中に占めた位置と役割 飯田
 美季子

新聞書評欄等（2002年4月～6月受入）

～各新聞から書評・映画評・VIDEO評等をピックアップしました～

解放新聞 2064号（解放新聞社刊，2002.4.8）：80円
 映画 「ALI」（マイケル・マン監督）
 解放新聞 2065号（解放新聞社刊，2002.4.15）：80円
 音楽座標 「DON'T ANSWER ME」（THE ALAN PARSONS PROJE
 CT）
 山口公博が読む今月の本
 『戦後文壇畸人列伝』（石田健夫著） / 『転向再論』
 （鶴見俊輔，鈴木正，いいだもも著） / 『東京のどん

底から 古いゆく路上生活者の声を聴く』（宮下忠子著）
 解放新聞 2066号（解放新聞社刊，2002.4.22）：80円
 今週の1冊 『貧困の克服 アジア発展の鍵は何か』（ア
 マルティア・セン著）
 解放新聞 2067号（解放新聞社刊，2002.5.6）：120円
 今週の1冊 『日本経済50の大疑問』（森永卓郎著）
 映画 「ビューティフル・マインド」（ロン・ハワード監
 督）

部落の技 和膠 染川明義文, 世古真理子絵

解放新聞 2070号 (解放新聞社刊, 2002.5.27) : 80円
山口公博が読む今月の本

『川端康成・三島由紀夫往復書簡』(川端康成, 三島由紀夫著) / 『夫婦善哉』(織田作之助著) / 『声に出して読みたい日本語』(齋藤孝著)

解放新聞 2071号 (解放新聞社刊, 2002.6.3) : 120円
今週の1冊 『モハメド・アリ その闘いのすべて』(デイビット・レムニック著)

解放新聞 2072号 (解放新聞社刊, 2002.6.10) : 80円
今週の1冊 『まちづくりとしての地域教育 大学と地域の共育実践』(後藤直編著)

解放新聞 2073号 (解放新聞社刊, 2002.6.17) : 80円
今週の1冊 『MOTSU MADNESS 男の料理 内臓』(西川治著)

解放新聞 2074号 (解放新聞社刊, 2002.6.24) : 80円
山口公博が読む今月の本
『癌患詩集』(菊池章一著) / 『保田與重郎文芸論集』(川村二郎編) / 『台所で元気になる』(山本ふみこ

著)

解放新聞 411号 (岡山解放新聞社刊, 2002.4.10)
講演要旨 部落差別の解消と人権確立を求めて(1) 角岡伸彦

解放新聞 412号 (岡山解放新聞社刊, 2002.4.25)
講演要旨 部落差別の解消と人権確立を求めて(2) 角岡伸彦

解放新聞東京版 550号 (解放新聞社東京支局刊, 2002.6.15) : 90円

東京の部落の歴史 1 幕府との共同作業で弾左衛門支配始まる 浦本誉至史

解放新聞東京版 551号 (解放新聞社東京支局刊, 2002.7.1) : 90円

東京の部落の歴史 2 浅草弾左衛門とは何者か? 浦本誉至史

なら解放新聞 688号 (奈良県部落解放同盟支部連合会刊, 2002.5.25) : 140円

摂食障害ってなんだろ 14 すー

事務局より

8月の休室のお知らせ

8月3日(土)・12日(月)~17日(土)・24日(土)・31日(土)と日曜日は休室いたします

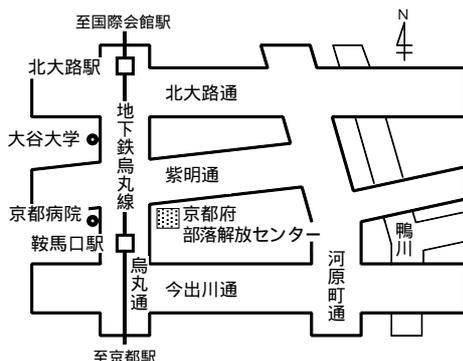
8月は休みを利用して遠方より図書資料を閲覧に来られる方が多いのですが、今年は上記のように土曜の休みが多くなりますのでどうぞご注意ください。

ホームページのリンク集を大幅に更新しました。部落問題に関するホームページを約130ほど集めていますのでご覧になってください。また、抜け落ちていたり、新たなホームページがありましたらご連絡ください。どんどん充実させていく予定です。

メールマガジンの発行も順調です。灘本所長の「テレビ番組レビュー」や「映像・音楽レビュー」など辛口のコラムが人気です。是非お読みください。登録はホームページからできます(バックナンバーも読めます)。

Memento 9

発行日 2002年7月25日 / 編集・発行 京都部落問題研究資料センター



所在地 〒603-8151

京都市北区小山下総町5-1
京都府部落解放センター 3階

TEL/FAX 075-415-1032

U R L <http://www.asahi-net.or.jp/qm8m-ndmt/>

開室日時 月曜日~金曜日 第2・4土曜日 10時~17時
(祝日・年末年始は休みます)

交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩2分